市民学芸員活動報告　平成28(2016)年3月　第15号

みはら玉手箱

平成27年4月19日（日）に開講した「平成27年度 市民学芸員実践講座」は、10カ月のカリキュラムを全て終了し、平成28年1月24日（日）、めでたく閉講式を迎えました。

平成27年度市民学芸員講座

閉　講　式

1. 開会挨拶　文化課
2. 公開講座 「里海フォーラム」
   Ⅰ 講演 「里海文化の資源化ー三原のタコを中心に」
   印南敏秀（愛知大学教授）
   Ⅱ 発表・報告
   「宮本常一がみた海の文化ー瀬戸内写真の資源化」　高木泰伸（宮本常一記念館 学芸員）
   「三原の民俗学徒・鮓本虎夫と宮本常一の交友」　友宗邦夫（みはらアーカイブス）
3. 講評　三原市文化財協会会長 橋本敬一先生
4. 平成28年度の実践講座予定　文化課

〔印南敏秀先生〕

〔高木泰伸氏〕

〔橋本敬一先生〕

平成27年度　各グループの感想・報告

情報発信グループは、活動成果を紹介する文化課のホームページ「みはら玉手箱」において、第12号～第14号が発行済で、第15号を準備中。

三原古写真収集グループは、収集範囲を発行済の旧市内から新市内に拡大しているが、個人蔵にも協力要請を考慮中。

宮本常一写真収集グループは、同氏の生まれ故郷である周防大島の協力をあおいで、平成29年2月に企画展を開催すべく、写真と情報収集を継続中。

城下町体験グループは、「第3回城下町ウォーク」の経験から、客層に合わせたコース設定や説明内容への工夫の必要性を感じたと感想を述べた。

三原遺産研究グループは、次世代に伝えたい100の三原遺産登録を目標に掲げ候補を捜索中。今後、市内の他団体にも協力を要請する。

城館体験グループは、平成28年3月27日開催予定の「高山城見学」に向けて、マップ作成や登山道の整備等の準備中。

市民学芸員運営グループは、講演会や展示会で受付など補助作業で多忙であった中で、「大正時代の橋の今昔」を調査した。

【質問受付】

この「みはら玉手箱」への質問等は三原市教育委員会文化課
bunka@city.mihara.hiroshima.jp
宛にお寄せください

みはら　おもしろクイズ

（解答は4/11頁の欄外にあります）

戦国時代の医学書「啓迪集（けいてきしゅう）」と三原

本年１月にＮＨＫのテレビ番組「歴史秘話ヒストリア」で、「毛利元就の病気を治した戦国時代の名医曲直瀬道三（まなせどうさん）自筆の医学書が広島県三原市に保管されている」との紹介がありました。同書は、本町の松林小路（しょうりんしょうじ）で有名な水野松林軒（道三の弟子で小早川隆景公の侍医）に道三から贈られたもので、広島県の重要文化財に指定されています。

この度、同書が全8巻+別冊1巻で保管されている三原市立中央図書館で実物を拝見し、色々知見を得たので報告します。

〔巻一〕

〔巻二〕

〔巻三〕

〔巻四〕

〔巻五〕

〔巻五　別冊〕

〔巻六〕

〔巻七〕

〔巻八〕

〔曲直瀬道三〕…解説書(2)より

1.　保管状態

(1) これらは桐の箱に保管されており、一般には閲覧できません。

(2) 代わりに、東京大学史料編纂所により、全頁をデジタル画像データ(DVD-R)に収録されているので、こちらは図書館のパソコンで内容を見ることができます。

2.　解説書　（三原市立中央図書館蔵）

(1) 現代語訳「啓迪集」(上)(下)　㈱思文閣出版発行

「啓迪集」は、漢文（漢語）のため、当用漢字にない漢字が殆どで、現代の我々には難解です。この著書は、巻一から巻八まで、現代語に訳されており、記述内容の専門的詳細はともかく、ある程度の理解はできます。貸出はできませんが、館内閲覧はできます。

(2) 「曲直瀬道三と近世日本医療社会」　公益財団法人　武田科学振興財団発行

道三の紹介や、毛利一族や信長・秀吉等との関わり、「啓迪集」の部分解説や戦国時代における医師達の位置づけ等が興味深く記述されています。こちらも、館内閲覧になっています。

3.　「啓迪集」の位置付け　…解説書(2)より

(1) 現代の総合病院の全ての科を網羅する道三の著作はすこぶる多いが、代表作「啓迪集」は天正2(1574)年に正親町（おおぎまち）天皇に献上されました。道三は当時中国で行われた医学を日本に導入

した功労から、日本医学中興の祖と称されています。

> 解説書(2)より
> 　日本の医学の歴史は、隋唐医学を丹念に学んだ平安時代から、宋元の印刷医書を次第に吸収していった鎌倉室町時代を通して、長いあいだ中国の圧倒的な影響下に生成した。戦国～安土桃山時代を生きた曲直瀬道三は、明代の医学理論と治療学をよく吸収した上に、独自の治療学を樹立して、江戸時代における日本医学の独自化への道を拓いた。

(2) 道三はその豊富な自著を、学ぶ人の医学知識の程度に応じて、九段階に設定していました。
第一段階；「切紙の初」ほか、　第二段階；「切紙の中上」ほか、第三段階；「切紙の下」ほか、
第四段階；「切紙の奥端」ほか、第五段階；「切紙の奥」ほか、第六段階；「切紙の外」ほか、
第七段階；「三家流」ほか、　第八段階；「大徳済陰秘訣」ほか、第九段階；「啓迪集」。

4.　三原市立中央図書館蔵「啓迪集」の位置付け　…解説書(1)(2)より
以下の理由により、現存の「啓迪集」の中で、その価値は高いと思われます。
(1) 全8巻を通じて、道三自筆と認められる箇所が多い。
印刷技術のない当時では、大勢の門弟は師道三の筆に近づける努力をしていた。現存の「啓迪集」は、以下の10点が主であるが、道三の筆に酷似した門弟が書写した頁が多い。
①杏雨書屋新収本　②東博亨徳院本　③杏雨書屋貴乾A本　④三原市立図書館本
⑤東大総合図書館本　⑥杏雨書屋杏九九四本　⑦静嘉堂文庫本　⑧石原明旧蔵本
⑨宮内庁書陵部本　⑩内閣文庫本
(2) 巻三末尾に、天正11(1583)年、京都において門下の松林軒（姓は水野、出雲の人）に贈与した旨の自筆奥書がある。

啓迪集自序
吾儕稟生縁於洛澨而学醫術於
利陽勵志於救恤布業於宇内上
始于軒岐内経下及于百家醫書
日夜翫味之漸究厥旨趣閔朱氏
発揮撿劉氏微義而知醫法有聖
俗察虚備纂要審天民正偏而識
藥方之精麁矣予久出入華夷市
多療沈痾獲救活者難以具載竊

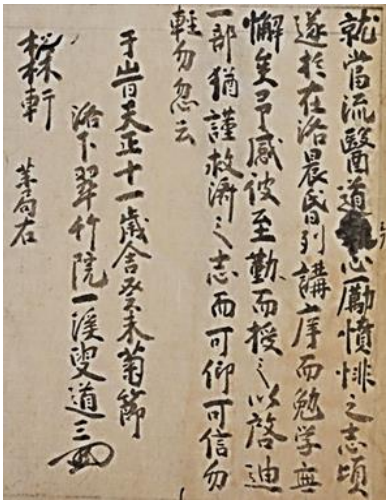
〔　啓迪集　自序　〕

5.　訳文例　…解説書(1)より
(1) 「啓迪集」自序
1行目…吾儕稟生縁於洛澨而学醫術於
2行目…利陽勵志於救恤布業於宇内上
〔読み〕　吾儕（わなみ）、生縁（せいえん）を洛澨（らくよう）に稟（う）けて、醫術（いし）を利陽（りよう）に学び、志（こころざし）を救恤（きゅうじゅつ）に勵（つとム）まし業（わざ）を宇内（うだい）に布（ふ）かんとす。上（かみ）は
〔意味〕　私は京都にうまれて、医術を足利で勉強し、志を病人をあわれみ救うことに専念し、医業を天下に布衍（ふえん）しようと努力してきた。そこで上は

(2) 巻八　奥書（おくがき）
（道三から弟子の松林軒に贈る旨、巻末に記載）
就當流醫道執心勵憤悱之志頃
遂於在洛晨昏列講庠而勉学無
懈矣予感彼至勤而援之以啓迪
一部猶謹救済之志而可仰可信勿
輕勿忽云
　于旹天正十一歳舎癸未菊節
　洛下翠竹院一渓叟道三（花王）
松林軒　　薬局右

> 奥書；
> 書物の終わりに、発行あるいは書写の経過その他のことを書いた文章

（訳文４行目の援は、授の校正ミスではないでしょうか？）


就當流醫道執心勵憤悱之志頃
遂於在洛晨昏列講庠而勉学無
懈矣予感彼至勤而援之以啓迪
一部猶謹救済之志而可仰可信勿
輕勿忽云
于旹天正十一歳舎癸未菊節
洛下翠竹院一渓叟道三
松軒　薬局右

〔　巻八の奥書　〕

6.　戦国時代の武将と医師との関わり　…解説書(2)より

(1) 戦国大名は、戦傷の緊急手当ての必要性と家督相続と妻子への養生の必要性から、仕医（番医）を常置させていました。

＜戦傷の緊急手当て＞

関ヶ原の合戦（1600年）の負傷者は数万人、

川中島の第四次合戦（1561年）　武田軍の戦死者　4千余人、負傷者6千5百人、
上杉軍の戦死者　3千余人、負傷者6千人、

朝鮮出兵

- 冬の低い温度や厳しい寒風を防ぐ衣料を備えていなかったので、多くの兵隊は、凍傷のため、手足や耳を失った。
- 水の違いやビタミン不足から脚気や夜盲症もあったという。
- 上杉景勝の兵の15%が病気、吉川領地から派遣された船長の半分が病死。
- 50人の医師集団が派遣されたこともあった。
- 秀吉は軍師黒田孝高（よしたか）には、曲直瀬流の医師3人を送った。
- 総大将毛利輝元は、渡海後間もなく病気になった。数カ月しても治らないので、小早川隆景が秀吉に知らせた。秀吉は即座に道三の一番弟子玄朔を派遣した。
- 輝元の体調は好転せず、秀吉から何回も帰朝要求があったが応じず、文禄3(1594)年4月まで在鮮した。
- 同時期に小早川隆景と吉川広家も病気になり、不健康な状態で合計2年間悪環境の中で在陣した。

日本軍総勢16万人の中で、毛利勢はほぼ1/4を占めた。
毛利輝元　3万人、小早川隆景　1万人、
毛利秀包　千百人

(2) 朝鮮出兵の医学上の収穫

- 水野松林軒は、小早川隆景の侍医として渡海し、現地で朝鮮古活字版の医学書「黄帝内経素門」を手に入れています。
- 輝元のもとに派遣された曲直瀬玄朔は、蜜陽県で元の注汝懋が著述した「山居四要」を入手し、輝元治療の参考にしました。輝元の依頼により、玄朔は和訳して要点を「山居四要抜粋」にまとめました。
（最近の研究では、「山居四要」は道三の手許には、朝鮮出兵以前からあったようです）

おもしろクイズ

日本医学中興の祖といわれる曲直瀬道三自筆の医学書「啓迪集」は広島県重要文化財として三原市に保管されています。
その保管場所は、次のうちいずれでしょうか？

(ｱ)　三原市立中央図書館　(ｲ)　三原市歴史民俗資料館　(ｳ)　三原市役所

クイズの解答　　(ｲ)

三原のお祭り

亀山八幡神社「御弓神事」

昭和31(1956)年９月３０日三原市に合併された鷺浦町。周囲18.2km 人口773人 425戸（2015年調査）の小さな集落の町です。

［亀山八幡神社］

三原港から南に約６km 小さな佐木島の南側に亀山八幡神社はあります。
16mの幅広い階(きざはし)を登ると、神社は楠や樫の大木が生い茂った亀の甲のような小山の上に厳かに鎮座しています。

今回は平成20(2008)年5月19日　三原市無形民俗文化財に指定されたこの神社の御弓神事が本年2月11日（土）に催されたので紹介します。

弘安10(1287)年、須波の住人であった正五位上丸山朝臣(あそん) 相模守(さがみのかみ) 源(みなもとの) 歳国(としくに)が京都石清水(いわしみず)八幡宮から御分霊を勧請して祀ったのが始まりと伝えられる神社です。
丸山歳国は、京都御所に仕えていたころ弘安５(1282)年、冤罪によって備後国栗原に配流となりました。後に許されて弘安7(1284)年、角南村(すなみむら)（現須波町）に移住したといわれています。

弓祈祷は、芸予諸島を中心とした愛媛県・広島県・香川県の沿岸部の地域で盛んに行われ、県内では、尾道市百島八幡神社また福山市沼名前(ぬなくま)神社などで行われていますが、ここ三原市内では唯一この亀山八幡神社で行なわれるものです。しかし高齢化と人口減少の波にさらされ、参加者も減少し、寂しくなっているとのこと。

御弓神事は例年２月１１日に行われる初祈祷の中の行事として行われます。
初祈祷では拝殿内にて関係者が本殿まで並び、しめやかな雰囲気の中参拝者は、息のかからないよう榊の葉を口に挟み鯛や野菜など１５の供え物を手渡しで奉納する献饌(けんせん)を行い、家内安全、無病息災、五穀豊穣を祈ります。

［献饌をする参加者］

［豊作と島民の平穏無事を祈りながら矢を射る］

これが終わると、境内にて、恵方の逆の方角に設置された的（約１m四方の大的と直径約40cmの小的）に、先ず宮司が１年の豊作と島民の平穏無事を祈りながら、矢を射ます。続いて日本弓道連盟教師の向田出身の田中さんが模範演技を披露された後、総代長、世話役、還暦者、頭屋組の順におよそ５m離れた的を射ます。

山田宮司の話
初めは弓道の心得がなく、なかなか的に当たらなかった。
宮司はどうしても的を射抜かなければならず、（当たらない年は凶作となる）苦肉の策で少し前に出てから矢を射てやっと当てたこともあった、と話しておられました。

［弓を射る総代長］

恵方の反対方向に矢を射ることは、この方角から邪悪なものが入りこむと考えられているからです。

　的に矢が当たると、歓声と拍手が起こり、的に当たったことを報せる太鼓がドドドーンと打ち鳴らされます。

［模範演技］

　この神事に用いる大的や小的などは、その年１年間の神事の主担当である頭屋（当屋）組が中心となって、数回にわたり会議を開き、役割を決めて準備万端整えます。

　この日の最後は参加された皆さんに、いろいろと用意・工夫された餅まきが行われ、和やかな雰囲気の中で楽しんでおられました。

［餅まき］

［楽しむ参加者達］

［準備されたもの］

　御弓神事の起源は定かではないが、数百年は続いているだろうといわれている、と宮司さんの話。

　また近所の古老の話では、神社の杜には昔山城があったとか、武士達の弓の稽古の名残とか、また、人々は高台に住み、周囲に矢竹を植えて戦に備え、攻め来る海賊の襲来を弓で撃退した、その名残が神事につながったとも。今も神社の一隅には矢竹が繁茂していました。

　いずれにしても、新しい年を迎え節分を過ぎる頃から農作業が始まり、前年の収穫に感謝し、秋の豊作を願い吉凶を占ったことが神事になったと思われます。

［参考とした資料
わが町三原（平成20年５月号）
三原市教育委員会　御弓神事　看板
亀山八幡神社　パンフレット］

石碑が語る三原の歴史

前号で「道の駅みはら神明の里」の眼下に広がる糸崎について紹介しましたが、糸崎は天然の良港で、広島県で最初に開港指定を受け、大正の初めには輸入税額全国第6位の港でした。また、鉄道についてはＳＬ時代に岡山、広島の中間位置で、特急、貨物列車も含め全列車が停車する第１級の駅でした。

港と鉄道の街として栄えた糸崎を本号でも続いて紹介します。

道　標

〔「三原城　東惣門跡」の石柱〕

〔旭町東端より石柱を望む ⇦ 印「石柱」〕

江戸時代には現在の糸崎は東野村（ひがしのむら）といって、三原城付（しろつき）5カ村の中の一つでした。西は三原城下町の東町の東端で、現在の旭町に隣接していました。この旭町の集落は初代三原城主浅野忠吉（ただよし）公を、新宮から三原へ護衛を兼ねて案内をした新宮水軍の一部が定着した集落だといわれています。

西国街道は東野村を通って、ここから城下町に入りました。城下町の入口に東の惣門がありました。

ここに「三原城　東惣門跡」と彫られた18ｃｍＸ15ｃｍ角、高さ120ｃｍの石柱が「みはら歴史と観光の会」により、平成10(1998)年に建てられました。

石柱は大きい道路の傍に建てられていますが、この道路は戦時中に敵の空襲に備え、鉄道に沿って行われた建物疎開の後に設けられたもので、実際の門は町の中を通っている旧西国街道にありました。

当時の様子は想像もできませんが、街の中の狭い道路がわずかに西国街道の面影を残しています。

この集落は海岸にありましたが、南面が干拓されて古浜塩田ができました。現在は鉄道と港が隣接した最適の地として糸崎に誘致された三菱重工業の工場が拡張され、古浜塩田の跡にできています。

西国街道は一部は城内を通過し、城下町の西の惣門は約３ｋｍ西の西宮下にあります。

記念碑

［広島県糸崎鉄道学校跡碑］

［第二中学校跡地碑］

三菱重工業の北、国道2号線に、「道の駅みはら神明の里」への連絡道の交差点があります。ここの古城通公園の南に高さ90ｃｍ、幅120ｃｍ、台座高さ140ｃｍの「広島県糸崎鉄道学校跡」の碑が昭和54(1979)年に糸崎鉄道学校同窓会によって建てられています。

正面には上部に校章があり、その下に　広島県糸崎鉄道学校跡　記念碑　同窓会一同　の字が彫られています。裏面には建立委員長松本明重識、森岡峻山書として糸崎鉄道学校の由来、創始者で校長を勤められた青影正遵先生への顕彰の言葉が書かれています。

国鉄のＳＬ時代には、糸崎は鉄道の街として駅、機関区、車掌区、電力区等あらゆる部門が置かれていました。これら鉄道関連の職員養成のための、全国で数校しかなかった鉄道学校が造られたのです。

創設は昭和3(1928)年で、糸崎機関区の南の海岸にありましたが、機関区の拡張により、昭和17（1942）年に現在の古城通公園の地に新築移設されました。昭和24(1949)年に学制改革と、創始者青影正遵先生の逝去により、全国の鉄道現場で活躍する同窓生に惜しまれながら、２１年間の幕を閉じ、廃校になりました。習っていた教科もユニークなものがあり、ＳＬの投炭実習場やモールス信号の練習などもしていたようです。

「広島県糸崎鉄道学校跡」の碑に隣接して高さ115ｃｍ、幅200ｃｍ、台座高さ25ｃｍで五藤康之元三原市長の揮毫による「第二中学校跡地」の碑が平成15(2003)年に建てられました。

敗戦の翌年の昭和21(1946)年に占領軍の命令で学制改革が行われ、義務教育が六三制となり、戦後の混乱期に各小学校の講堂を仕切るなどして、新制中学校が設立されました。

第一中学校、第三中学校、第四中学校等は、翌年から学区内に独立校舎を建設して独立しましたが、第二中学校は昭和24(1949)年から、廃校になった糸崎鉄道学校の校舎跡に移転しました。

糸崎のこの地は第二中学校の学区ではなく、義務教育の学校が学区外にある全国でも珍しい学校になっていました。中之町にあった三原工業高等学校が、如水館高等学校として深町に移転した跡地に、第二中学校は平成１５(2003)年に新築移転し、約半世紀経ってようやく学区内の地に落ち着きました。

句碑・詩碑

かつきするあまの手引の糸崎は
しほたれ衣をるにそ有ける
了俊

［今川了俊詩碑］

糸碕神社の境内に多くの石碑がありますが、その中に今川了俊が糸崎を通過した時、詠んだといわれる高さ180ｃｍ、幅80ｃｍ、台座高さ25ｃｍの立派な詩碑があります。これは「みはらスーパー」「みはら歴史と観光の会」の創始者である勝原博三氏の遺志で、ご遺族が平成10（1998）年に建てられたもので、碑文は勝原氏と一緒に「みはら歴史と観光の会」を創始された福岡幸司氏が書かれたものです。

戦国の世に活躍した有名な今川義元と同族の今川貞世は、遠江守護であった今川範国の次男に生まれました。貞世は文武に通じて了俊と号し、冷泉歌学の担い手となりました。弟に与えた家訓は今川状と呼ばれ、江戸時代の寺子屋の教科書として大いに普及したそうです。

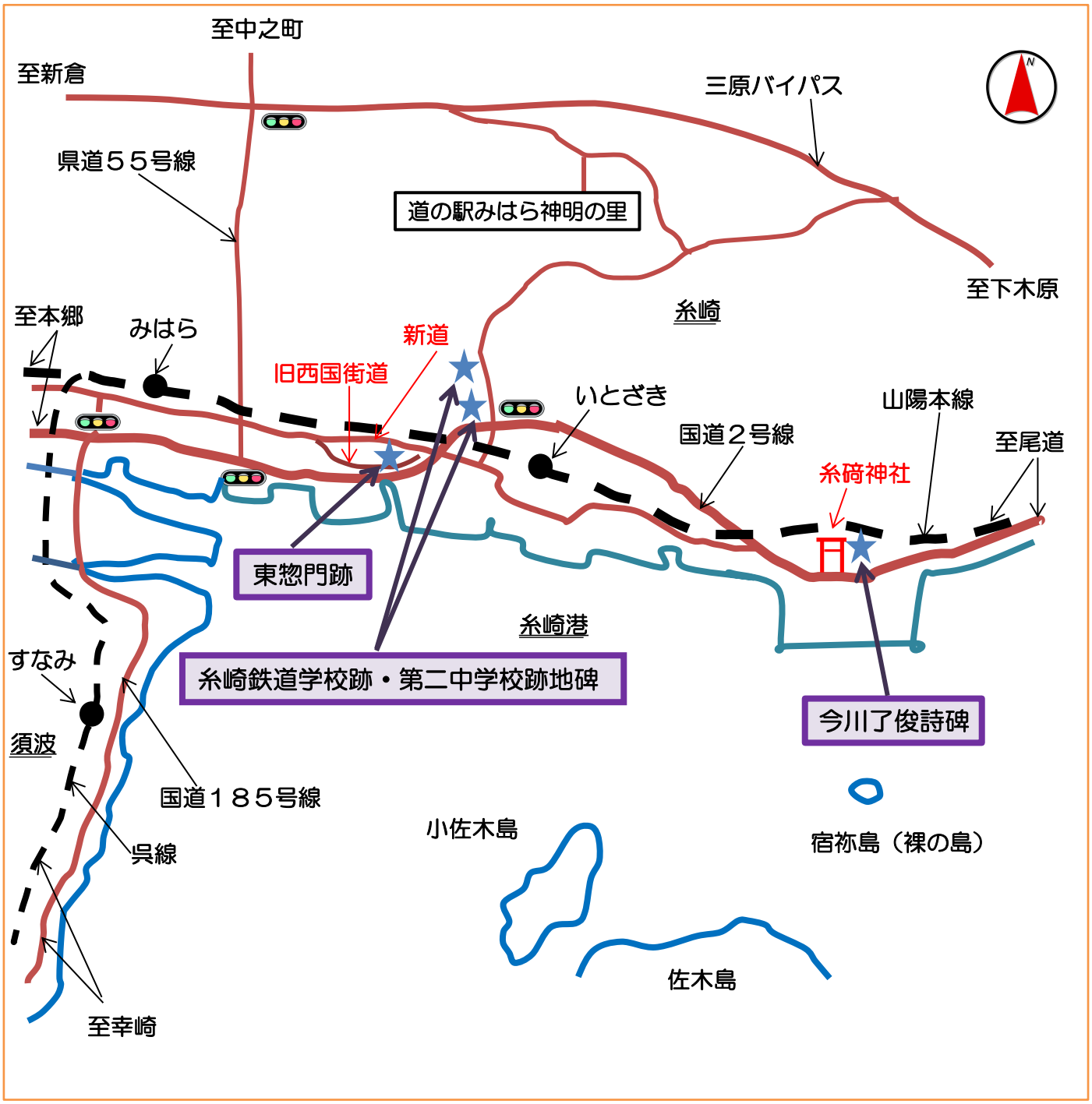
了俊は足利幕府の鎮西探題に任じられて、九州の任地へ赴く途中に尾道に宿り、応安4(1371)年5月に糸崎に立ち寄りました。陸路を通ったと云われていますが、当時の道ははっきりしていません。

沼田には二カ月も滞在したそうで、安芸の国の守護にもなっていました。

了俊は守護職としての働きの傍ら紀行文や歌作を多く残しています。この石碑の碑文は紀行文「道ゆきぶり」の中にあるもので、「北より南にさし出たる山さきに、松や檜ハらしけりて、いとおもしろきおのへあり、いとさきとそいふ、かつきするあまの手引きの糸崎は、しほたれ衣をるにそ有ける、むかひにひかたをへたてたる山を、いむのしまといふなり、それ行過て、備後と安芸の国のさかひを出る・・・」と書かれた一部です。

この碑文を糸碕神社の竹田宮司は「潜って漁をしていた海女に所を聞いたら『いとさき』だといって案内をしてくれた。海辺では、濡れそぼり着物からしずくを垂らして働いている人たちがいた。」と解釈されています。

概略マップ


至中之町
至新倉
三原バイパス
県道５５号線
道の駅みはら神明の里
至下木原
糸崎
至本郷
みはら
新道
旧西国街道
いとざき
山陽本線
国道２号線
至尾道
糸碕神社
東惣門跡
糸崎港
すなみ
糸崎鉄道学校跡・第二中学校跡地碑
今川了俊詩碑
須波
国道１８５号線
小佐木島
宿祢島（裸の島）
呉線
佐木島
至幸崎

三原にある狛犬

今回も、本郷地区の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

３４．大歳神社（おおとし）　三原市本郷町善入寺５７７

慶長５(1600)年の毛利輝元寄進状（楽音寺文書）に「善入寺領４石余」とあるのは当社のことといい、小早川家崇敬の社と伝わります。

（単位：cm）

	高さ	幅	奥行
阿形	68	25	50
吽形	68	24	50

年代　昭和41(1966)年 10月
石工　不明
石材　花崗岩
型　玉乗り型

３５．霹靂神社（へきれき）（通称　香久山太神宮）　三原市本郷町船木字中之谷２１７７

文久３(1863)年現在地に神殿を新築し、東約２００mの所に鎮座した香久山太神宮と須佐神社を遷座合祀して香久山太神宮としました。その後、明治４５(1912)年に中野坪の霹靂神社を合祀して社号を霹靂神社に改め現在に至ります。

（単位：cm）

	高さ	幅	奥行
阿形	96	35	75
吽形	100	33	80

年代　昭和　6(1931)年 8月
石工　不明
石材　花崗岩
型　玉乗り型

[参道の入口]

（単位：cm）

	高さ	幅	奥行
阿形	92	33	61
吽形	94	29	61

年代　大正　7(1918)年 8月
石工　不明
石材　花崗岩
型　玉乗り型

[参道石段の中途]

（単位：cm）

	高さ	幅	奥行
阿形	80	35	55
吽形	83	33	60

年代　大正　7(1918)年 9月
石工　不明
石材　花崗岩
型　構え型

[社殿の前]